
熱海の駅で会いましょう。

ひなひな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

熱海の駅で会いましょう。

【Nコード】

N3180Y

【作者名】

ひなひな

【あらすじ】

夏美は水産加工会社で働く、二十歳の事務員だ。

ある夏の日、いつもの様に会社で働いていると、一本の電話が入った。

それは、祖父の訃報を知らせるべく内容あり、祖父が作った、もうひとつの家族からの電話でもあった。

訃報

小さな小さな港町を、赤い太陽が照らしている。じきに来るまっ黒な夜を待ちながら。

町は小さいながらも、まるで絵画の様な美しい景色がいたるところに散らばっているし、魚も美味い。そんな所を昔から夏美は自慢に思っていた。

そして、今、夏美はこの小さな港町で、自慢のひとつが大きな夜の小さな星になった。

夏美は町の水産加工会社で働いている。

二十歳にはなったものの、顔はまだあどけなさを残していた。スラットした体型に、短く切り過ぎた髪が手伝ってしまい、まるで少年のような風貌だった。

最近では、社内での評価も上り、憧れる上司とも仕事上ではあるが、話しも出来るようになってきた。

恋人こそ居ないが、そこそこに充実した生活を送っていた。

変わらない毎日を、夏美はわりと気に入っていた。

あの日、一本の電話をとるまでは。

8月の上旬。

やり手社長の命により、水産加工会社にも、節電だの、クールビズだのが取り入れられてしまい、社員はパソコンを前にうだっていた。

けたたましい音と共に、電話が鳴った。

夏美は、事務員であった為、毎日の半分はこの電話対応が日課であった。

「はい、並木水産の五十嵐です」

いつもお決まりの台詞だった。しばらく返事が無い。

「どういったご用件でしょうか？」

もう一度たずねてみた。

「あの、その、自分は五十嵐淳平っています」

若い男の声だった。何処か懐かしさも感じられる様な、奇妙な安心感がある。

「唐突な話して恐縮ですが、先日、祖父が亡くなりました。

知らない電話だったと思うのですが、一応、報告だけとは思いました」

夏美は話しの内容が、全くもって掴めない。

「あ、あの、私へのお電話ですか？」

混乱気味に聞いてみると、男が声のトーンを急に下げた。

「もちろん。五十嵐さんでいらっしゃるんですね？」

祖父をご存知無いかもありませんが、遠い昔、貴方のおばあ様の亭主だった人ですよ」

その瞬間、夏美は電話を握りしめたまま、凍りついてしまった。

今は無き祖母の話では、祖父はたいそう立派な碌でなしかった。

働く事もままならず、挙げ句の果てに妻子を残し、愛人のもとへ姿

を消したのだ。実に不誠実な人だった。

「あの、迷惑な話でしたよね。お気持ちも考えず、すみませんでした」

夏美はまだ言葉に詰まっていた。

何故母では無く、自分に電話が来たのだろう。

「あの、どちらにお住まいなんですか？」

考えた末のひとこと。

「自分は、熱海に父と母と住んでいます。祖母は、3年程前に亡くなりました」

男は淡々と話を続けた。

「一度だけでも、貴方とお話が出来てよかったです。

本来、会い居れない間柄ですよ。その辺は自分も、熟知しています」

夏美が今まで合って来た、どんな大人よりも丁寧な、品の有るこの声に悲しい位惹かれてしまう。

「あ、あの、葬儀は…」

言うより早く、男が言った。

「斎場の都合やら、日が悪かったのが重なりまして、明日の9時に出棺になりました」

ふと、時計に目をやると、午後2時になろうとしている。

「わかりました。家族の代表として、私が出席させていただきます」
何故そう返事をしたのか。夏美にもはっきり言ってわからなかった。
ただ、この声の主に会いたくなった。

話を上手くまとめて、いつもより早く帰宅した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3180y/>

熱海の駅で会いましょう。

2011年11月17日05時04分発行